

2015年度 地域・社会活動 活動報告

『2015 さいたまシティマラソン救護ボランティア』

2月22日に開催された2015さいたまシティマラソンに、学生・教員19名が昨年度に引き続きランナーの見守りなどの救護ボランティアで参加しました。この大会は今年11月の第1回さいたま国際マラソン兼第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)女子マラソン代表選手選考会として開催され、本学も救護ボランティアで応援しています。

参加した学生から「頑張ってくださいと声をかけたら、ランナーの方が笑顔で『ありがとう』と返してくれて感動しました。」との話を聞く

ことが出来ました。医療従事者を目指す学生は、頑張っている人を大切に想う気持ちは必ず相手に伝わる大切さを実感し、その後もランナーに大きな声で応援をしていました。

『小川赤十字病院 防災訓練』

3月7日に実施された小川赤十字病院の防災訓練に、学生11名が傷病者役のボランティアで参加しました。小川赤十字病院は、地域の中核医療機関であり、埼玉県災害拠点病院の一つです。今回は災害時の対応を確認する訓練でのお手伝いをしました。

担当の方からは「日本医療科学大学の学生の皆さんにお手伝いいただき、大変ありがとうございました。訓練も充実できました。次回も是非お願いします。」との言葉を頂きました。

『第2回外秩父トレイルラン43』

5月10日に開催された“第2回外秩父トレイルラン43”に学生・教員20名がボランティアとして参加しました。寄居町～越生町までの43kmを400名以上のランナーが走りました。

当日は給水所での参加者への給水提供や、体調不良者への救護を行いました。また、最後のランナーを皆拍手でお迎えしました。

参加した学生から「ランナーの一生懸命走っている姿を見て、私自身も力が湧きました。ありがとうと感謝されてうれしかったです」という感想がありました。





初めての開催ということもあり鶴ヶ島市長も出席され、皆で施設の方々や地域の方々と楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

『第1回きいちごパーティー』

5月23日に開催された“きいちごパーティー”に学生・教員8名がボランティアとして参加しました。

きいちごパーティーとは、鶴ヶ島市立障害者地域活動支援センター「きいちご」において、開設27年目で初めて開催され、施設としてだけではなく広く地域に施設を知っていただくための地域交流の機会としてのお祭りです。

当日はハワイアンバンドによる演奏をはじめ、盛りたくさんの催し物がありました。本学の学生は、他大学の学生と一緒にパーティーを盛り上げました。



助を行い、出し物としては、利用者参加の玉入れや高校生による和太鼓演奏が催され、利用者の方と笑顔で一緒に楽しみました。参加した学生からは「利用者の方と接する機会が多かったので、声のかけ方や接し方など大変勉強になりました」との感想がありました。

『やまぶきの郷「春まつり」』

5月30日に介護老人保健施設やまぶきの郷で“春まつり”が開催され、学生11名がボランティアとして参加をしました。このイベントは施設の利用者とそのご家族を対象として催され、約80人の方が参加しました。介護老人保健施設やまぶきの郷と本学とはボランティアを通じて交流があり、就職先や理学療法学専攻の実習地としてもお世話になっています。

当日、参加した学生は、利用者の方と楽しくお話をしたり、お食事のお手伝いや車椅子の移動補助



参加した学生からは、「地域の方が皆で盛り上げている様子をうかがって大変勉強になりました。今後も積極的に参加していきたいです」との感想がありました。

『あじさいの丘夏祭り』

7月5日に神奈川県秦野市にある鶴巻高齢者複合施設ケアタウンあじさいの丘で開催された“あじさいの丘夏祭り”に、学生・教員5名がお手伝いとして参加しました。このイベントは地域に根ざした活動をしている施設が主催者となり、地元医師会や商工会の後援で地域の医療介護福祉を盛り上げるお祭りです。脊髄損傷で車椅子生活となった方や独居の高齢者の方、勿論、地元のお元氣な住民の方々も参加して大変盛り上がりました。

参加した学生からは、「地域の方が皆で盛り上



次回も頑張りたいです」との感想がありました。

『トレイルラン救護ボランティア』

7月12日に飯能越生の山中で行われた“飯能▶越生 50km&30km”トレイルランに学生・教員8名がボランティアとして参加をしました。

トレイルランとは陸上競技の中長距離走の一種で、舗装路以外の山野を走るマラソンです。炎天下で200名を超えるランナーが参加しました。エイドで参加者に給水や食べ物を提供したり、体調不良者への対応のお手伝いをしました。

参加した学生からは、「ランナーの方や主催者の方に“ありがとう”と感謝され、うれしかったです。

『水辺環境教室』

8月20日にNPO法人主催水辺環境教室のお手伝いに学生・教員4名がボランティアで参加をしました。

坂戸市社会福祉協議会「夏!体験ボランティア」企画で、地元の小学生が高麗川の水質調査や生物調査をとおして自然環境を学ぶものです。浅瀬でアイカワ(コイ科)やスジエビなどを観察しました。最後は土手でゴミ拾いを行いました。

参加した学生は、「小学生たちの目が生き生きしていて、元気で、かわいかったです!一緒に環境を勉強しながら素敵な思い出ができました」との感想がありました。





『平成27年度埼玉県・桶川市総合防災訓練（第36回九都県市合同防災訓練埼玉県会場）』

8月30日に桶川市内で開催された同総合防災訓練に学生・教員53名が傷病者役で参加しました。本学は平成25年から3年連続して同訓練に積極的に参加しています。学生は交通事故で救助される傷病者や仮設診療所に逃げてきた妊婦役などを真剣に演技しました。また、埼玉県災害拠点病院である北里メディカルセンター（北本市）でも傷病者役で参加し、災害拠点病院の機能や埼玉DMAT隊間の連携の検証に貢献しました。学生は「負傷した部位を保護し、声をかけながら励まして救助してくれる隊員の気配りに感動した。これからの勉強に役立てたい」と熱く語ってくれました。



『平成27年度政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練』

9月1日、政府機関および地方公共団体により行われた同訓練に学生・教員38名が傷病者役で参加しました。天候が悪い中、埼玉県内災害拠点病院と入間基地間で実際に救急車での陸路搬送を行い、入間基地では北海道DMAT隊50名が航空自衛隊輸送機で空路搬送された後、埼玉DMAT隊と速やかな医療連携を行っていました。参加した学生は「雨天で予定していた訓練とは異なっていたようですが、災害は予測できるものでなく、どのような状況にも臨機応変に対応することが必要だと感じました。地震大国とされている日本で、また、首都直下型地震が高確率で予測されている現在、多職種が連携し合い自分の役割を確認できる訓練をしておくことが今できる大切なことであり、近い将来看護師や保健師として働くので、危機管理について考え直すきっかけとなりました。今まで看護学生として実習をしてきましたが、今回は患者役を体験し、ストレッチャーで運ばれる緊張感、処置される不安を感じることができ、貴重な経験をさせていただいたと振り返っています。ありがとうございました」と熱く感想を語ってくれました。

今回の総合防災訓練への本学の貢献について多数の報道機関で紹介されました。



『リレー・フォー・ライフ・ジャパン・川越』

9月19、20日に埼玉県川越市で行われました「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 川越」に本学の学生と教職員合わせて50名が参加をしました。リレー・フォー・ライフ(RFL)とは、地域社会全体でがん征圧を目指し、がんサバイバー、現在闘病されているがん患者、ケアギバー(家族、遺族、支援者)らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティイベントのことです。

日本医療科学大学では今年で3年連続3回目の参加になります。2日間にわたり開催されたイベントでは、参加した学生や教職員がたすきを繋ぎながら交替で24時間夜通しウォーキングをしました。本学はコースを合計200周もしてイベントを盛り上げました。さらに、本学もイベントブースを出させて頂き、参加者に対して手のアロママッサージやメディカルハーブティーで心身のリラクゼーションを提供。子どもたちとはシャボン玉を使って遊びました。今年はオレゴン海外研修でお世話になったスーザン・G・コーメン乳がん基金より寄贈された乳がん撲滅のTシャツを羽織り紹介させていただきました。参加した学生は「がんで苦しんでいる人の想いを知ることができるきっかけとなりました。そして学生も先生も一緒になり、がん撲滅運動に取り組めるなんてNIMSに入学するまで知らなかった。とても素敵な思い出にもなりました。来年もぜひ参加します」と、力強い意気込みを語ってくれました。



『ピンクリボンウォークin戸田市2015』

10月5日、戸田市で行われたピンクリボンウォークに本学の学生・教職員17名が参加しました。ピンクリボンウォークは乳がんの早期発見・早期治療の大切さを訴える啓発運動で、市内を歩きながらPR活動を行いました。一方、戸田中央総合病院では、本学の診療放射線学科の学生を中心にマンモグラフィーの紹介・体験コーナーのお手伝いをしました。乳がんや検診についての正しい知識を深めることができ、とても有意義な1日を過ごすことができました。



『第15回坂戸よさこい』

10月10日と11日に行われた“坂戸よさこい”に本学のよさこいサークル「日本医療連」が参加しました。

例年8月に開催されていましたが、今年から10月の開催となり、実習中の学生もいましたが、限られた練習の中でもお互いが協力し合ったことで、本番はまとまりのあるすばらしい演舞を披露することができました。沿道のお客さんからも大きな拍手と暖かい声援を頂くことができ、学生にとって大きな力となっていました。また、本会場と沿道の給水所では、踊り子や見物客の皆さんに麦茶やお塩をお配りして、踊り子がいい演技が出来るようにイベントスタッフとしても参加して盛り上げました。参加した学生は、「練習時間がなかなか取れず大変でしたが、本番では皆が一つになれました。また、沿道の方々から『頑張ってるね』『かっこいい!!』と声をかけて下さり、とても嬉しかったです。来年もぜひ参加して地域を盛り上げていきたいです」と、汗を輝かせながら話してくれました。

大きな拍手と暖かい声援を頂くことができ、学生にとって大きな力となっていました。また、本会場と沿道の給水所では、踊り子や見物客の皆さんに麦茶やお塩をお配りして、踊り子がいい演技が出来るようにイベントスタッフとしても参加して盛り上げました。参加した学生は、「練習時間がなかなか取れず大変でしたが、本番では皆が一つになれました。また、沿道の方々から『頑張ってるね』『かっこいい!!』と声をかけて下さり、とても嬉しかったです。来年もぜひ参加して地域を盛り上げていきたいです」と、汗を輝かせながら話してくれました。



『光の家まつり』

10月18日に、毛呂山病院光の家療育センターで行われた「光の家まつり」に本学の学生・教員7名がお祭りの手伝いで参加しました。お祭りではセンターに通所されている方とご家族が楽しまれていました。学生は坂道で車椅子の介助をしたり、ゲームコーナーやバザー係として参加しました。施設で実習中の学生もこの日はイベントスタッフとして一緒にお祭りを楽しいでいました。参加した学生からは「医療者はお祭りなんてしないといていた。療養者さんと一緒にお祭りを通して関われるなんて素敵だと思います」と、実習を通して、また一つ新たな学びができたようでした。

して関われるなんて素敵だと思います」と、実習を通して、また一つ新たな学びができたようでした。



『奥武蔵もろやま「仰天」ハーフマラソン』

10月25日に、毛呂山町教育委員会主催のハーフマラソンのエイド係と救護としてBLS(1次救命処置)の資格を持つ本学の学生・教員5名が2年連続で参加しました。

学生はランナーが素晴らしいRUNができるように沿道から熱い声援を投げかけました。参加した学生は、「ランナーの皆さんの走る様子を伺い、逆に私が元気を貰いました。今日の為に毎日コツコツと距離を伸ばして参加された方もいて、何事も毎日の積み重ねが大切なんだと思いました。

私も勉強をもっと頑張りたいと思います」と、笑顔で話してくれました。そうですね、医療職の国家資格を得ることは簡単ではありません。学生は、大切なことをランナーの皆さんから教わったようでした。



『鶴ヶ島市地域合同防災訓練』

10月31日、鶴ヶ島市社会福祉協議会、鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会共催の地域合同防災訓練に本学・教員3名が2年連続で参加しました。

この防災訓練は鶴二支え合い協議会・地域10自治会の共催と地域の福祉施設、医師会、近隣の諸大学、社会福祉協議会、鶴二小等の協力のもと、行政などに頼らず、地域住民が主体となって行われます。当日は400人を超える参加者がありました。本学のブースでは災害時におこりやすい深部

静脈血栓症の予防体操やオムツで作る簡易ホットパックの作り方をご指導させていただきました。参加者からは「とても実践的で、良いことを教えてもらった。ぜひ予防体操は普段でも毎日取り組んでみたい」と、主催者や参加者から高い講評を頂きました。



『川越観光ガイドボランティア』

10月24日、25日に本学の英語サークル“Excellent”が川越で外国人観光客を対象に英語での観光ガイドボランティア活動を行いました。公益社団法人小江戸川越観光協会のご協力のもと、当日は20名の学生が仲町観光案内所を拠点に活動し、訪れた外国人観光客に川越市のシンボル“時の鐘”や蔵造りの町並みについて英語で説明しました。

参加した学生からは「講義以外にも英語を学ぶことができ、観光客とのコミュニケーションを楽しむことができた」との声も聞かれました。



『第1回さいたま国際マラソン』

11月15日に、BLS(1次救命処置)の資格を持つ本学・教員18名が救護ボランティアとして参加しました。本大会は第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)女子マラソン代表選手選考競技会です。前身である「さいたまシティマラソン」の時から参加実績を評価されて3年連続3回目の参加となりました。

寒い中体調を崩しているランナーは居ないか周囲を注意しながらも、沿道からランナーに声援を送りました。参加した学生は、「赤い帽子と上着はメディカルだけが着られるもの。ランナーの方がこの色を見ることで、安心して走れるようにしないとイケいと思うとすごく緊張しました。ランナーの皆さんに声援を送ると笑顔で返事をしてとても感動しました。今よりももっともっと勉強して、誰からも信頼される医療者になれるように勉強していきたいと思いました」と、あらためて医療のスペシャリストを目指す自覚が付いたようでした。



『埼玉県東部地区高等学校駅伝大会』

12月13日に、BLS(1次救命処置)の資格を持つ本学・教員4名が救護ボランティアとして3年連続して参加しました。

本大会は埼玉県代表選手も参加しており、どの学校も沿道からチームの仲間の走りに熱い声援を送っていました。参加した学生は、「一つのタスキを仲間と繋ぐ高校生の頑張る姿をみて、患者さんの想いを多職種で連携するチーム医療と同じなのかなと感じました。一つの目標に向かって皆で努力することはとても素敵なことなんだと思いました」と、医療の専門職を目指す学生として、大切なことに気が付いてくれたようです。

専門職を目指す学生として、大切なことに気が付いてくれたようです。



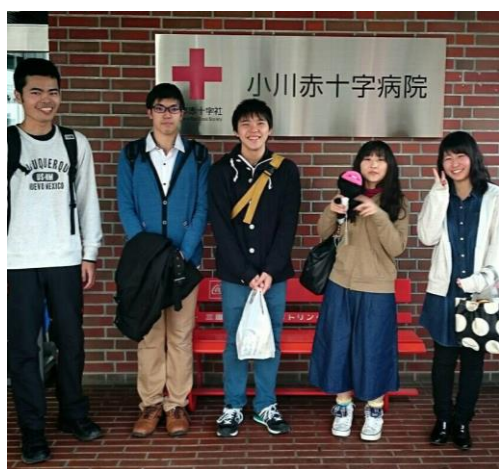
『やまぶきの郷クリスマス会』

12月19日に、介護老人福祉施設「やまぶきの郷」のクリスマス会に本学の学生11名が参加しました。

初めて介護ボランティアをする学生がいながらも、何度も参加する学生もいます。学生はフラダンスを職員の方と一緒に披露したり、お食事の介護や車椅子、トイレ誘導の介助をしました。

参加した学生は、「初めて体験する事ばかりでしたが、私の学科では学べない事も多くとても新鮮でした。『ありがとう』と言っていただき、うれしかったです。またぜひ参観したいです」と語ってくれました。普段経験できないことが学べる事も、ボランティアの魅力の一つですね。

です。またぜひ参観したいです」と語ってくれました。普段経験できないことが学べる事も、ボランティアの魅力の一つですね。



『小川赤十字病院災害救護訓練』

2月20日(土)、3月19日(土)両日に、本学の学生・教員述べ20名が参加しました。

同病院の院内研修として災害時に行われるトリアージ方法や連絡・指示系統の確認が行われました。本学は時間の経過とともに変化する傷病者役で参加しました。

参加した学生は、「怪我を負って不安な気持ちになる患者さんを体験できて、医療者から『大丈夫ですからね』という励ましの温かさを感じました。患者さんを想い、寄り添うことの大切さを感じました」と、医療者として大切なことを学んでいるようでした。

から『大丈夫ですからね』という励ましの温かさを感じました。患者さんを想い、寄り添うことの大切さを感じました」と、医療者として大切なことを学んでいるようでした。